

令和元年度小松市立松東中学校 学校評価（中間）

めざす児童生徒像

- ・前向きに取り組む生徒
- ・思いやりをもち、優しい心で接する生徒
- ・考えをはつきり伝える生徒

※児童生徒達結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定する） 家庭や地域学習との連携による 家庭学習の充実による	学力向上	・定期テストや学力テストにおける基本問題の正答率を高める。（①を70%以上にする） ・家庭学習の充実を図る（②を50%以上にする）	① 定期テスト・学力テストでの基本問題の正答率	76				①について基本問題の正答率は目標指標を達成したが、個々の学力の定着には差がある。 ②について家庭学習は昨年より上昇したが、目標指数を大きく下回っている。学年が下がるにつれて、学習時間が少ない傾向にある。	・個別指導の充実を図り、放課後や休み時間を利用して補充学習を行う。 ・昨年度から活用している「みどりノート」の内容を充実させ、家庭での学習時間を確保できるように生活設計を行うよう指導する。
			② 学校授業以外に平日1日に勉強する時間が2時間以上		20				
			集計						
石川県共通 重点項目 業務働き方や 組織的な学校運営	業務働き方や 組織的な学校運営	①②の肯定的な回答を80%にする	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	75				①に関しては80%に達しなかった。ある程度の仕事の軽重は仕方ないが業務改善とともに2学期に向けての課題である。また②に関しては減少傾向にあるものの文化祭時期の9、10月は増える傾向にあるので注意が必要である。	業務の平準化は業務改善とともに進めいかなければいけない問題であり、現在の業務を長期休み等でしっかりと見直し、業務の適切な割り振りを考えていく。また9、10月の勤務状況をしっかりとチェックし声かけをしていく。
			② 教職員は勤務時間を意識し、能率の良い業務改善に努めている	83					
			集計						
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%）			※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通 重点項目	学校研究	①②③とも教職員アンケートで肯定的に答えた教員の割合が90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	82				②③は肯定的に答えた教員が90%以上であったが、①は82%であり、目標を達成できなかつた。昨年度に引き続き道徳を中心据えて校内研究を行っている。授業前には指導案の検討会を開き、授業後は整理会を開いて道徳の授業方法について話し合ってきた。6月に授業交流週間を設け、互いに授業を見せ合うことで、授業力の向上につなげようとした。講師を招聘しての研修を行っていなことが、1学期の課題としてあげられる。	道徳の授業は評価につながるワークシートを工夫していかなければならない。年間計画に従って実践を積み重ねて生徒の道徳的心情を養い、道徳的実践力をつけていく必要がある。また11月には計画訪問Aがあるので、各教科の授業力もつけていかなくてはならない。講師の招聘は機会があったら行う。
			② 研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100					
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	91					
			集計						
	指導力の向上	①②③④⑤とも生徒アンケートで肯定的に答えた生徒の割合が前期80%、後期90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	92	91		-1	・教師と生徒との差違が見られ、特に「振り返る活動を行っているか」の項目の差違が大きい。教師側の評価が高い傾向があり、双方のとらえ方の違いが見られる。 ・振り返る活動は、生徒自分が自分が行ったかどうか、どの場面が振り返りかを把握できていないケースもある。	・毎時の授業においての課題の提示を丁寧に行う。教員と生徒が課題の内容、到達目標を共有し、十分理解したうえで取り組みに入る。 ・毎時の終末に、本時の目標が達成できたのかを、提示された課題や到達目標にそくしてまとめたり振り返ったりしていくことで、教員と生徒間の認識のずれは解消できると期待される。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	91	86		-5		
			③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	80	76		-4		
			④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	90	82		-8		
			⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	100	88		-12		
			⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90	91		1		
	学力の定着	①②③についての取り組みの実践・検証率での達成率90%以上	集計					②について学力向上ロードマップの活用について一部の教員で活用が進んでいない結果となった。 ③について小中連携について松東みどり学園との統合を見すえ、1学期より研究主任を中心協議を行っているため目標指標を達成している。	・学力向上ロードマップについては各教科で課題に対する対策が適切に進んでいるか確認する必要がある。 ・夏季休業中にも小中連携についての情報を共有し、また2学期以降にも継続して小中合同での研修を行う予定である、
			① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	90					
			② 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	73					
			③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	92					
			集計						
家庭学習	家庭学習	①②について、それぞれの学年で設定された時間・内容について生徒・教員・保護者とも達成率80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	92	77		-15	①について教員と生徒との数値の差は、教員側は計画を立てて学習をさせているが、生徒はなかなか計画通りに実践できていないという現状だと考えられる。 ・昨年から活用している「みどりノート」を活用し、日常から時間の使い方について考えさせ、計画的に学習を進めるよう指導する。 ・定期テスト前や休暇前に学習の計画を立てさせ、保護者や教員が定期的に点検・評価し、継続できるようアドバイスを送るようにする。	・昨年から活用している「みどりノート」を活用し、日常から時間の使い方について考えさせ、計画的に学習を進めるよう指導する。 ・定期テスト前や休暇前に学習の計画を立てさせ、保護者や教員が定期的に点検・評価し、継続できるようアドバイスを送るようにする。
			② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	100					
			集計						